



厚生労働省 三重労働局発表

平成 30 年 5 月 29 日(火)

担 当	厚生労働省三重労働局職業安定部
	職業安定課長 田中 秀治
	職業安定課長補佐 富山 晃伸
	地方労働市場情報官 吉原 健一
	電話 059-226-2305

報道関係者 各位

### 「雇用情報モニター報告集計結果(平成 30 年度第1・四半期)」

三重労働局では、県内企業・経営者団体等に雇用情報モニターを委嘱し、企業活動の実績と見通し、雇用動向等についての報告を、年4回(四半期毎)提出いただいております。

このたび、平成30年度第1・四半期(30年4月～6月)実績見込み及び次期(30年7月～9月)見通しの集計結果を取りまとめましたので公表します。

#### 調査結果 主な項目の概要

##### ○ 受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が28.8%で増加、「減少」が28.8%で増加。D I (「増加」-「減少」)は0.0。  
前期と比べ7.4ポイント下降。次期見通しは23.7で上昇予想。

##### ○ 企業収益の実績見込みと今後の見通し

「増加」が24.6%で減少、「減少」が26.2%で増加。D I (「増加」-「減少」)は▲1.6。  
前期と比べ10.7ポイント下降。次期見通しは11.5で上昇予想。

##### ○ 稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し

「増加」が31.6%で増加、「減少」が19.3%で増加。D I (「増加」-「減少」)は12.3。  
前期と比べ2.5ポイント下降。次期見通しは22.8で上昇予想。

##### ○ 設備投資の見込み

「ある」が39.3%で2.9ポイント増加。「ない」は31.1%で8.9ポイント減少。  
D I (「ある」-「ない」)は8.2で11.8ポイント増加。

##### ○ 従業員の過不足判断

「過剰」が横ばい、「やや過剰」が増加、「不足」が減少、「やや不足」が増加。  
D I (「過剰」-「不足」)は▲37.7となり、3.2ポイント増加(過剰判断が増加)。  
次期見通しは▲37.3で「不足」判断は減少の予想。

##### ○ 雇用調整の状況

実施事業所は6事業所(10.0%)で、前期の1事業所(1.9%)から増加。

○資料

別添 「平成 30 年度 雇用情報モニター報告集計」

○参考

- ・調査対象 地域経済にかかわりの深い企業の中から公共職業安定所長の推薦により労働局長が委嘱した、民間企業及び事業主団体
  - ・調査方法 調査票により、モニターから公共職業安定所長に郵送等により提出
  - ・調査時期 平成 30 年度第 1・四半期実績見込み及び次期（平成 30 年度 7 月～9 月）見通しについて
  - ・モニター内訳 建設業 2、製造業 48、運輸業 2、小売業 7、サービス業等 5、事業主団体等 7
  - ・回答状況 民間企業 62 社、事業主団体等 7 団体
- （注）集計結果には、業種別等の偏りがあると思われるのでご了承ください。

# 平成30年度 雇用情報モニター報告集計

平成30年度 第1・四半期  
三重労働局職業安定部職業安定課

29年度第4・四半期(30年1月～3月 以下前期)においては、多くの指標のD I(「増加」-「減少」)はプラスとなりましたが、30年度第1・四半期(30年4月～6月 以下今期)においては、多くの指標のD I(「増加」-「減少」)は弱い動きとなりました。

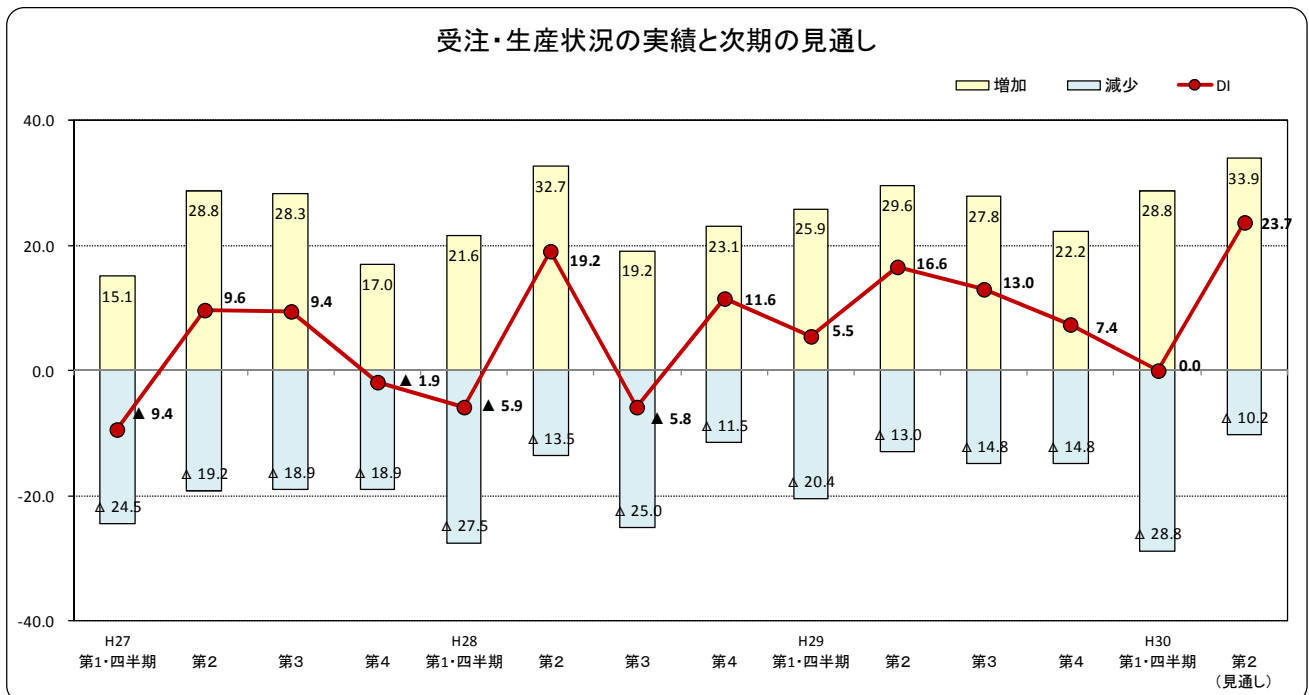
次期の予想においては、多くの指標で上昇の見通しとなっています。

## 1. 受注・生産動向について

### 【受注・生産状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の受注・生産状況では、「増加」が28.8%、「減少」が28.8で、D I(「増加」-「減少」)は0.0となり、前期と比べ7.4ポイント下降し、3期連続の下降となりました。

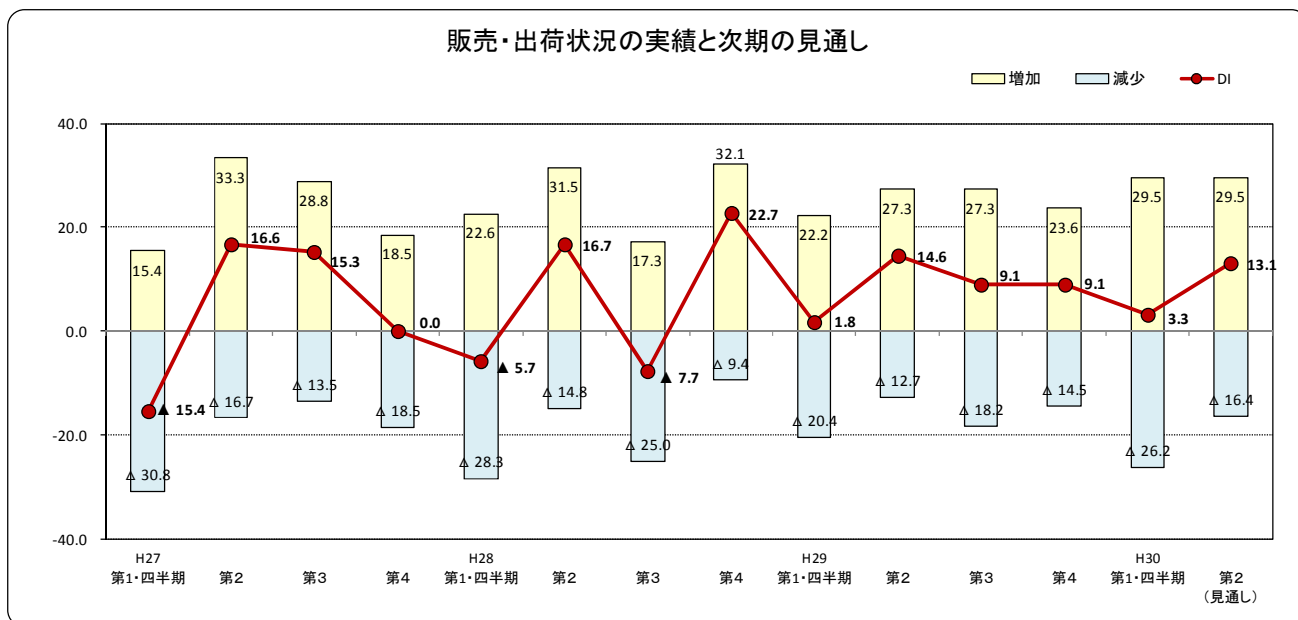
次期の見通しについては、D Iは23.7で、上昇する予想となっています。



### 【販売・出荷状況の実績見込みと今後の見通し】

今期の販売・出荷状況では、「増加」が29.5%、「減少」が26.2%で、D I（「増加」－「減少」）は3.3となり、前期と比べ5.8ポイント下降し、6期連続でプラスとなりました。

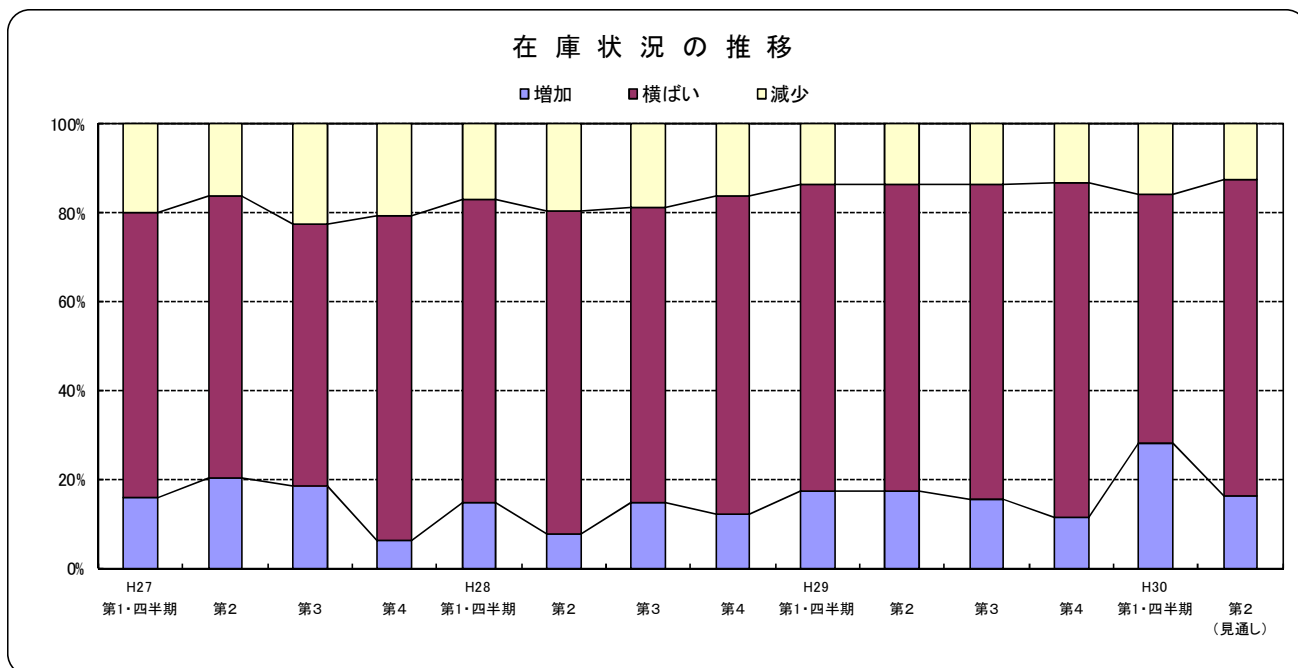
次期の見通しについては、D Iは13.1で、上昇する予想となっています。



### 【在庫状況】

今期の在庫の状況についてみると、「増加」が増加、「減少」が増加、33期連続して「横ばい」が最も多くなりました。

次期の見通しについては、「横ばい」が増加し、「増加」が減少する予想となっています。

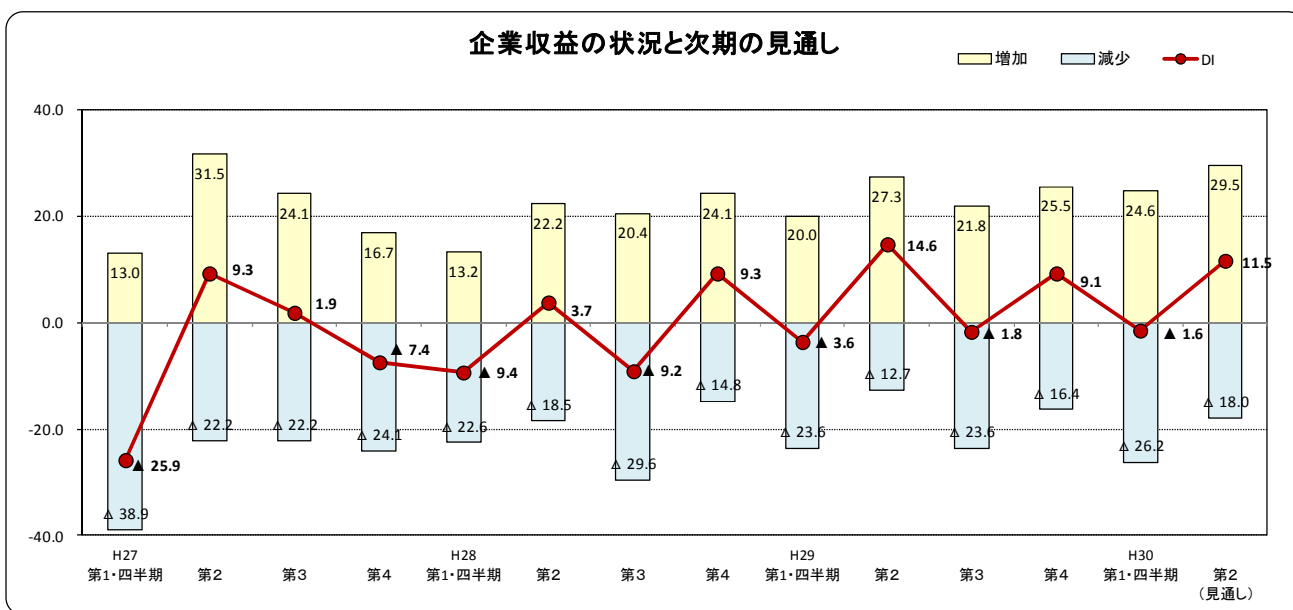


## 2. 企業活動の状況について

### 【企業収益の実績見込みと今後の見通し】

今期の企業収益の状況では、「増加」が24.6%、「減少」が26.2%で、D I（「増加」－「減少」）は▲1.6となり、前期と比べ10.7ポイント下降し、2期ぶりにマイナスとなりました。

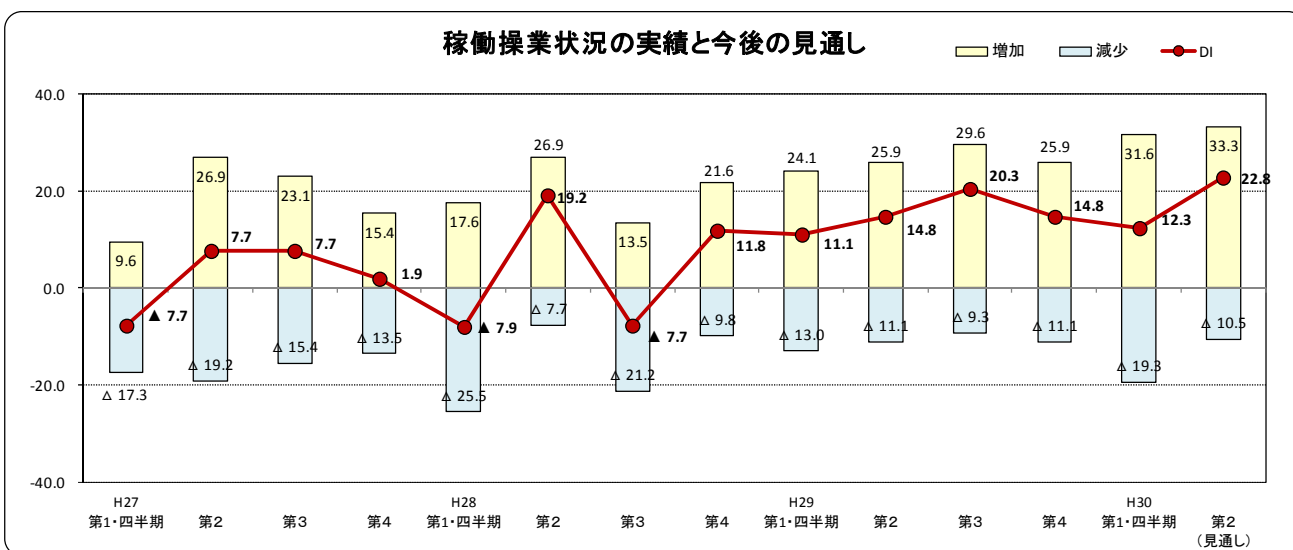
次期の見通しについては、D Iは11.5で、上昇する予想となっています。



### 【稼働操業状況の実績見込みと今後の見通し】

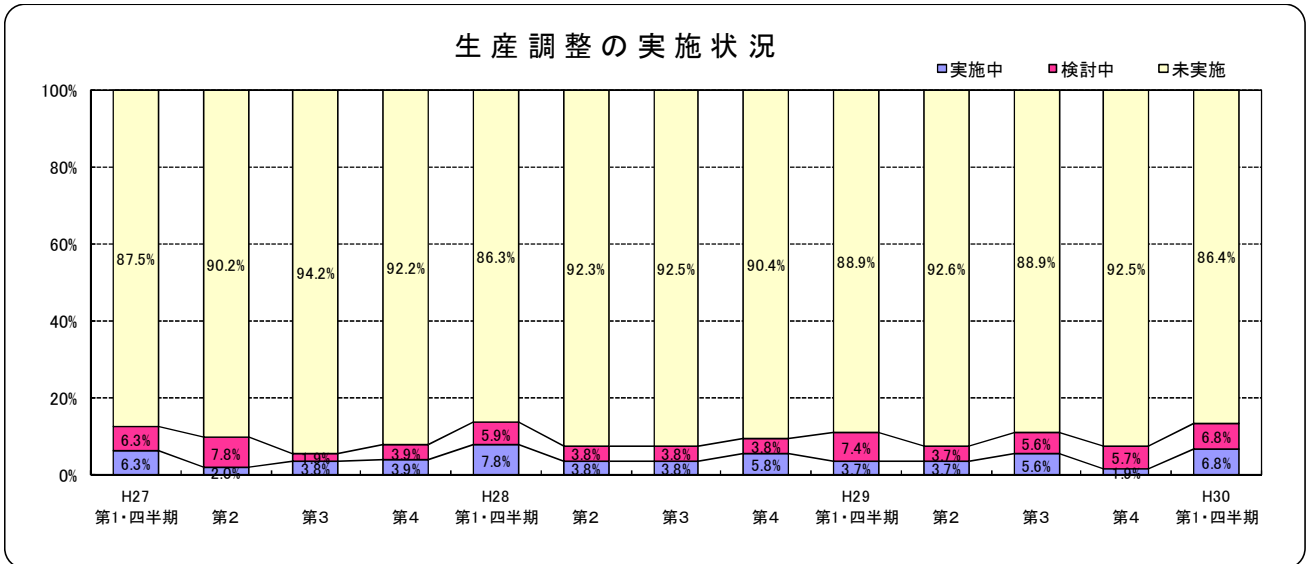
今期の稼働操業状況では、「増加」が31.6%、「減少」が19.3%で、D I（「増加」－「減少」）は12.3となり、前期と比べ2.5ポイント下降し、6期連続でプラスとなりました。

次期の見通しについては、D Iは22.8で、上昇する予想となっています。



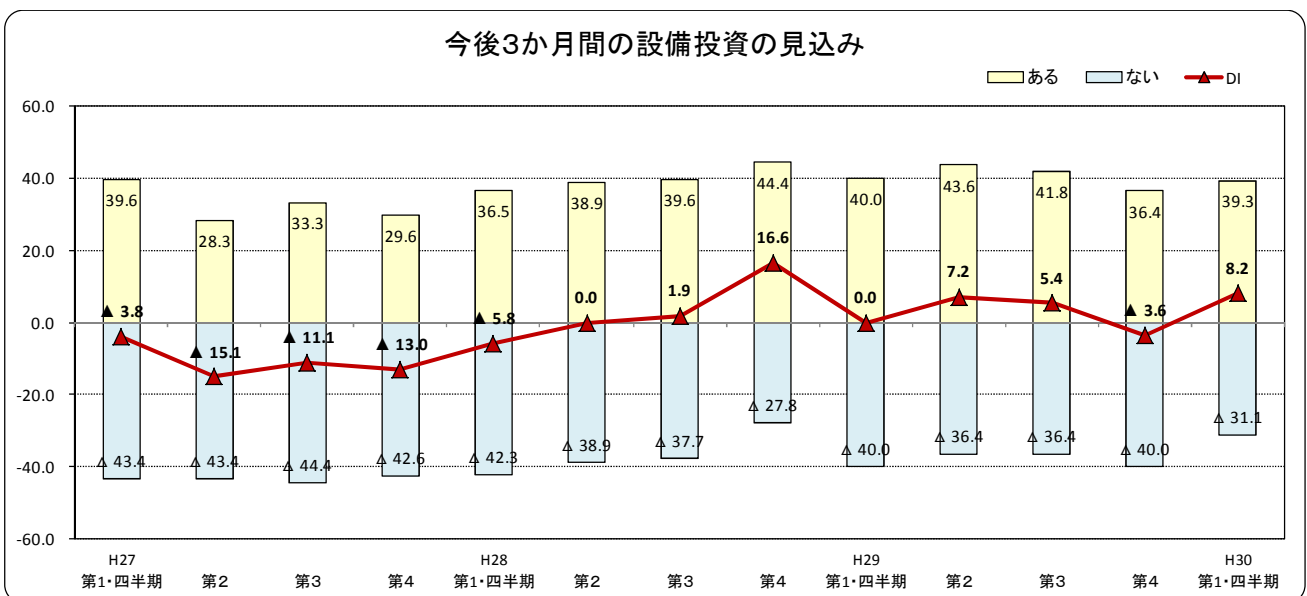
【生産調整の状況】

生産調整を「未実施」とした事業所は、今期は 86.4%で前期と比べ 6.1 ポイント減少、「検討中」は 6.8%で 1.1 ポイント増加、「実施中」は 6.8%で 4.9 ポイント増加となりました。



【設備投資の見込み】

今後3か月間の設備投資の見込みでは、「ある」とする事業所の割合は 39.3%で前期と比べ 2.9 ポイント増加、「ない」とする事業所の割合は 31.1%で 8.9 ポイント減少、D I（「ある」-「ない」）は 8.2 となり、前期と比べ 11.8 ポイント増加しました。

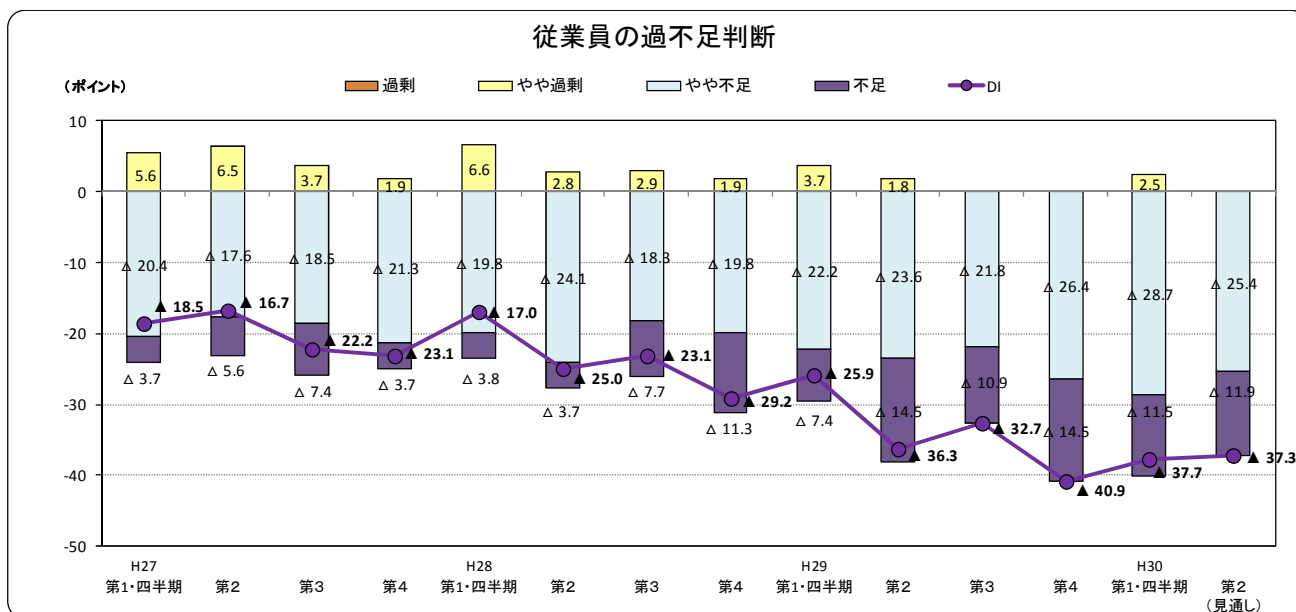


### 3. 雇用動向について

#### 【従業員の過不足判断】

「過剰」は0.0ポイントで横ばい、「やや過剰」とする事業所は2.5ポイントで増加、「不足」は11.5ポイントで3.0ポイント減少、「やや不足」とする事業所は28.7ポイントで2.3ポイント増加したため、D I（「過剰」－「不足」）は▲37.7となり、前期より3.2ポイント増加（過剰判断が増加）し、21期連続で不足判断が過剰判断を上回りました。

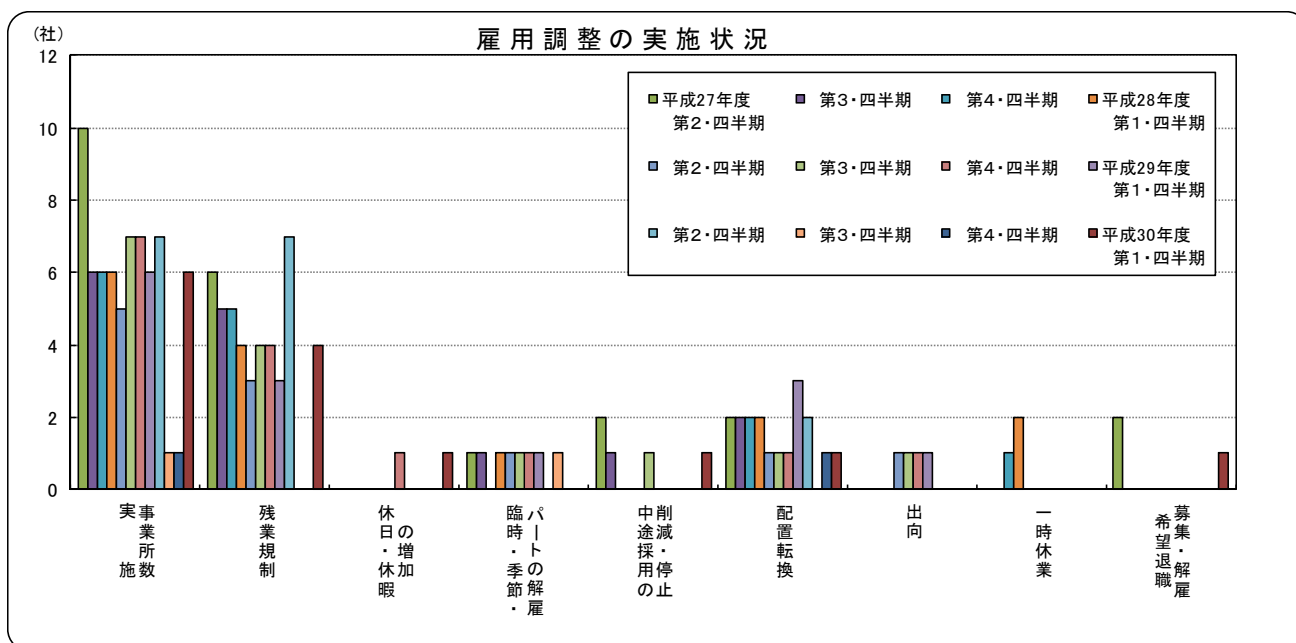
次期の見通しについては、D Iは▲37.3で、「不足」判断は減少の予想となっています。



#### 【雇用調整の状況】

雇用調整を実施している事業所数は、今期は6事業所（10.0%）で、前期の1事業所（1.9%）から増加しました。

	合計	実施なし	予定あり	実施事業所数	残業規制	休日・休暇の増加	臨時・季節・パートの解雇	中途採用の削減・停止	配置転換	出向	一時休業	希望退職募集・解雇
平成27年度 第2・四半期	51	40	1	10	6	0	1	2	2	0	0	2
第3・四半期	50	44	0	6	5	0	1	1	2	0	0	0
第4・四半期	52	45	1	6	5	0	0	0	2	0	1	0
平成28年度 第1・四半期	48	40	2	6	4	0	1	0	2	0	2	0
第2・四半期	52	44	3	5	3	0	1	0	1	1	0	0
第3・四半期	51	43	1	7	4	0	1	1	1	1	0	0
第4・四半期	53	45	1	7	4	1	1	0	1	1	0	0
平成29年度 第1・四半期	51	42	3	6	3	0	1	0	3	1	0	0
第2・四半期	53	45	1	7	7	0	0	0	2	0	0	0
第3・四半期	55	52	2	1	0	0	1	0	0	0	0	0
第4・四半期	53	52	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0
平成30年度 第1・四半期	60	54	0	6	4	1	0	1	1	0	0	1



<主なコメント>

- 従業員よりもパートの雇用が不足。製造業の雇用が活発なため流通業には応募が少ない。（卸売業、小売業）
- 事業所全体では人手不足であるが、後生産工程ではボトルネックが生じており、前工程の一部で生産調整しているが、次期には解消される。（製造業）
- 最重要顧客が北米での受注が今年度後期にずれ込んだことから受注は大幅に減少した。今年度夏以降に受注が回復すると見込んでおり、生産は前期と同レベルを維持して在庫を積み、下期の生産を安定させる施策を取っている。（製造業）
- パート従業員としての応募がない状況で、不足感が大きくなっている。（卸売業、小売業）
- 夏物商品の先行生産が始まり稼働は増えるが、ダンボール、紙器や物流費の値上げにより収益は厳しい。（製造業）
- 受注案件は東北地方の災害復旧案件が順調に推移しており、それに伴い生産活動がフル稼働状態になることが計画されている。
- 受注・生産増に対して、経験者をはじめ製造・検査職種を積極的に採用する予定。（製造業）
- 製造現場で業務従事する期間契約社員の人手が不足している。（製造業）
- 人員不足が続いており、採用活動に注力をしている。（製造業）
- 好景気の実感はなく、受注生産の見通しも明るくないが、新製品等を投入し挽回を図る。（製造業）